

# 関東良陵だより

## 東北大学関東良陵同窓会

### 春季総会のご案内

薫風の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学良陵同窓会関東連合会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜りたく、ご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を清水允熙先生（昭和四十三年卒、東北大学特任教授 富士山麓病院理事長）にお願い致しました。

テーマは世界的に問題となっている認知症について「認知症についての考えかた（予防法）」（講演要旨後述）と題してご講演をして頂きます。

懇親会のアフターデナーコンサートは、仙台出身の女流ピアニストの高橋礼恵さんをお迎えして数々の名曲（曲目等後述）、をお楽しみいただく予定になっております。

新緑の季節にふさわしい充実した総会になるものと思っておりますので、奥様はじめご家族の皆様ともども、ご出席をくださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会

関東連合会 会長

押田茂實

#### 総会プログラム

一、期 日 平成二十七年六月十三日（土）  
二、場 所 市ヶ谷私学会館アルカディア  
電話03（3261・9921）

JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩二分

三、受付開始 午後四時より

四、総 会 午後四時三〇分より開会  
開会の辞  
会長挨拶  
経過報告  
各役員報告・その他  
閉会の辞

五、特別講演 「認知症についての考えかた（予防法）」  
清水允熙先生

六、懇親会 午後六時より開会  
アフターデナーコンサート  
高橋礼恵さん ピアノ

七、会 費 会員 一〇〇〇〇円  
ご家族 五〇〇〇円（一人）

八、出席申込み 同封の振替用紙に会費と共にお申込み  
下さい。

（会費納入のお願い 本総会会費及び年会費のご納入を四  
ページ記載要領にてお願いいたします）

特別講演要旨

「認知症についての

考え方」(予防法)

清水允熙

(昭和四十三年卒)

東北大学特任教授

富士山麓病院理事長

散歩すると健康にいいといわれています。その散歩の量によって筋力がつくか衰えるかの結果になります。つまり、このことは、いつまで元気でいられるかと言うことと同じです。認知症も同じことです。今回は以下の「I」から「IV」の項目に分けて認知症を説明させていただきます。



清水允熙先生

〔I〕 40才頃から、毎日平均10万個の脳神経細胞が活動能力を喪失するといわれている。この結果は以下の表Aの通りとなる。

表A 脳内細胞の減少結果(40才から)

1日の減少数	1年間の減少数	50才時までの減少数	60才時までの減少数	70才時までの減少数	80才時までの減少数	90才時までの減少数	100才時までの減少数
7.5万	7.5万×365日 2737.5万	2737.5×10年 2億7375万	2737.5×20年 5億4750万	2737.5×30年 8億2125万	2737.5×40年 10億9500万	2737.5×50年 13億6875万	2737.5×60年 16億4250万
10万	10万×365日 3650万	3650×10年 3億6500万	3650.0×20年 7億3000万	3650.0×30年 10億9500万	3650.0×40年 14億6000万	3650.0×50年 18億2500万	
12.5万	4562.5万	4562.5×10年 4億5625万	9億1250万	13億6875万	18億2500万		
15万	5475万	5億4750万	10億9500万	16億4250万	21億9000万		
20万	7300万	7億3000万	14億600万	21億9000万			
25万	9125万	9億1250万	18億2500万				

〔I〕 40歳頃から、毎日平均10万個の脳神経細胞が活動能力を喪失するといわれている。その結果は上記表Aとおりのなる。〔II〕表Aの説明 〔III〕老化、疾病、栄養、運動→肉体的ストレス注a 精神的ストレス注b 注a→生命の意志について 注b→思考の意志について

〔IV〕①日常生活の中での現在と未来と過去について  
②現在の意味について ①と②の考察  
③現在の行動について

清水允熙先生

略歴

昭43 東北大学医学部

医学科卒業

慈恵医科大学医局入局

その後北海道、東北地方の病院勤務

同54 静岡県御殿場市に医療法人社団清陽会・御殿場高原病院開設

平23 病院名を富士山麓病院と改名

同26 東北大学特任教授に就任

海外での活動

\*中国科学院 精華大学医学部

北京協和医学院など七か所の大学の客員教授 国際アルツハイマー協会(中国) 特任高級顧問

現在も中国の病院・大学より講演要請が多く、精力的な講演活動を展開している。

主な著作・出版物

「ボケのち願わくば晴れ」「ボケが晴れるとき」「痴呆老人への接し方」ボケとその改善法」「2001年のボケ」

「老年期痴呆判定と対応」「痴呆介護インストラクター認定講座テスト」

「認知症I症状の心理学」「認知症II認知症の症例集」「認知症III心理学的対応」

「高齢期認知症―生活史・症状・対策」

表 B 現在の行動の①～⑩までの行為は、お互いに助け合っている行為です。

また、どれかの行為が目立って減少してくる時期が認知症の前駆期ということが出来るでしょう。充実した『現在』の生活に役立つ立派な『過去』と『未来』を創出して、私たちの生命の意志と思考の意志を励ましてくれるのです。認知症の初期、つまり軽度期は、私たちが未来を創ることが出来なくなることから始まります。通常であれば一日の行動の中で繰り返されている種々の事柄(表B)は、年齢を重ね、環境が変化するなどして、少しずつ減少し、欠けていきます。他人との協力関係、積極的な関わりも目立って減少します。認知症の初期段階には表Bの一日の行動の①～⑩までのどれかが減少したり弱ったり、消失したりして、一つまた一つと認知能力が衰えていくのです。私たちの認知能力のそれぞれは線路の枕木のようなものです。線路に並んだ枕木が弱ったり、腐って消失してしまえば、列車は脱線、転覆してしまいます。表Bの①～⑩までの各項目の行動減少の程度で、認知症の前駆期・軽度の程度で、中度・重度・最重度などの判定ができるのです。認知症高齢者の治療の糸口は、ここにあります。この項目を修復、各項目がお互いの能力を助け合うようにして、高齢者の認知症の進行を緩やかにし、症状の改善をはかるのです。(清水允熙)

## 表 B 現在の行動

- ① 事業・商売・家事、政治・学問の研究と参加、勉強などの継続
- ② 健康の確保と維持／衛生・清潔の維持／睡眠量についての注意
- ③ 対人関係(自己実現と存在価値の成立への協力のための配慮と努力が必要)
- ④ 家族(両親・配偶者・子・孫など)相互間の尊敬・感謝・優しさ
- ⑤ 愛する人、愛してくれる人がいること
- ⑥ 趣味を持つこと／読書・音楽・芸術・園芸・スポーツなど
- ⑦ 蓄積されている過去の経験・知識の整理と応用
- ⑧ 新たな経験・知識の獲得計画の作成
- ⑨ 日々反省し、自分を修正し、進化させること
- ⑩ ①～⑨を適切に関連させ、今日一日を完成させること  
人を愛すること・生きていること、存在していることを祖先・両親に感謝すること



高橋礼恵さん

## アフターデザイナー・コンサート

フロアイル・ピアニスト・高橋礼恵さん

今回の演奏者、高橋礼恵さんは、仙台のご出身で、桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学を経て、ベルリン芸術大学に留学したピアニストです。

高校在学中に園田高弘賞コンクール、日本音楽コンクールに入賞、大学在学中に、ベートーベン国際コンクール、エリザベート王妃国際コンクールファイナリストなどを受賞、渡欧後アルトゥール・シュナーベル国際コンクール、リース国際コンクール特別賞、ベルリン・スタインウェイ賞等を受賞しています。ドイツ新聞紙上で「心のピアニスト」を絶賛された演奏家です。オーケストラでは、ボン・ベートーベン・オーケストラ、プラハ放送交響楽団と共演、現在、ヨーロッパ各地、トルコ、韓国などで演奏活動をしており、日本でも活発なリサイタル活動をしています。(現在、ベルリン在住)

## プログラム

ベートーベン「月光ソナタ1:3楽章」 ショパン「別れの曲」

リスト「泉のほとり」で「愛の夢」

リスト「波を渡るパオラの聖フランチェスコ」その他

演奏者からひと言

リストの作品を一曲演奏します。「泉のほとり」は、とても綺麗な旋律です。

「波を渡る」激しく技巧的で派手な作品です。リストの静と動の両面を鑑賞頂きたく思います。

## 音楽家と外科医

### 荒井他嘉司先生

#### からのお便り

根本 宏

昭和四十一年卒  
本会常任幹事

この度、私と同様にクラシック音楽を愛好される荒井他嘉司先生（本会顧問 昭和36）から音楽家との交際を記したお便りを頂きました。ここには、外科医である荒井先生が手術をされた著名な音楽家とのお付き合いが書かれてありましたので、皆様にご紹介したいとお話をしましたら、よいとお返事をいただきましたのでご紹介致します。

：根本先生には、同窓会でいつも大変にお世話になってます。特に音楽好きの私は総会のコンサートが楽しみです。

昨年暮れに最近話題の人になっ

ピアノニスト室井摩耶子さん（九十四歳）のトークリサイタルに行つて来ました。彼女は、私と家が近くて長い付き合いです。私がベルリンに留学していた時には、彼女はベルリンを拠点に活躍していましたので、あちらでは大変にお世話になりました。

彼女が拠点を日本に移した二十五年ほど前に、肺がんが見つかり、相談を受けて、中野病院で、私が手術をしました。

肺機能を残す縮小手術ですが、完治して今でも現役リサイタルを続けています。

皆さんに一度聞かせてあげたいほど、彼女のベートーベンには素敵です。ピアノニストには反復練習が欠かせないと、九十三歳の今でも、一日八時間のレッスンをしており、その度に長年弾いている曲でも、日々新しい発見があり、作曲家と話をしているようだと言います。

ご縁のある音楽家のもうひと方は、私が手術をした日フィルの指揮者小林研一郎さんの令嬢

ピアノニストの小林垂矢乃さんです。手術前に不安になった彼女を父上が拙宅に連れてこられた。その辺の経緯を「指揮者のひとりごと」という随筆の「僕と娘」の項目に次のように書いています。その一部を紹介いたします。

：音楽がお好きな先生は、略：モーツアルトのクラリネット協奏曲の第二楽章が流れる静けさの中でこう語ってくださいました。「両肺にブラが見られる。したがって両サイドのオペになる。入院は三週間位になると思う」一瞬体がちぢみ震えが走った。

しかし「輸血なしに手術ができる」と聞いた時は、現代医学のすごさを思い感動があふれた。このお二人のピアノニストと知り合いになり、感じたことは、お二人ともとても忍耐強いことでした。忍耐力が美しく力強い音楽表現となって、私どもを魅了するとつくづく思いました。

医学は科学ではなく人の心まで癒す、哲学的文系だと思えました。

## 若手会開催される

平成二十七年三月十四日(土)、関東連合若手会が飯田橋・北海道で開催された。押田会長先生の発案で、若手を育てるために開催した。出席者は十七名。活気のある会となった。

## 女医部会開催の予定

平成二十七年七月二十五日(土)午後五時より、市ヶ谷アルカディアにて女医部会開催予定。講演は押田茂實先生、内容は「医療事故うらおもて」です。

\*本年度(平成二十七年)年会費  
三千元・総会会費(本人一万円  
ご家族一人五千円を同封の振込み  
用紙により、ご納入をお願い致し  
ます。

東北大学長陵同窓会

関東連合会 東京支部

〒247-0072

神奈川県鎌倉市岡本

二二一一一七〇四

TEL & FAX

〇四六七(四五)〇二八七